

シオフキの殻長別個体数を表3、その経年変化を図3に示した。

表3. シオフキの殻長別個体数

	0 mm以上 11 mm以下	11 mmより大きく 25 mm未満	25 mm以上
2008/8/2	441	75	37
2008/9/28	27	175	63
2009/6/7	5	0	0
2009/9/5	4	2	5

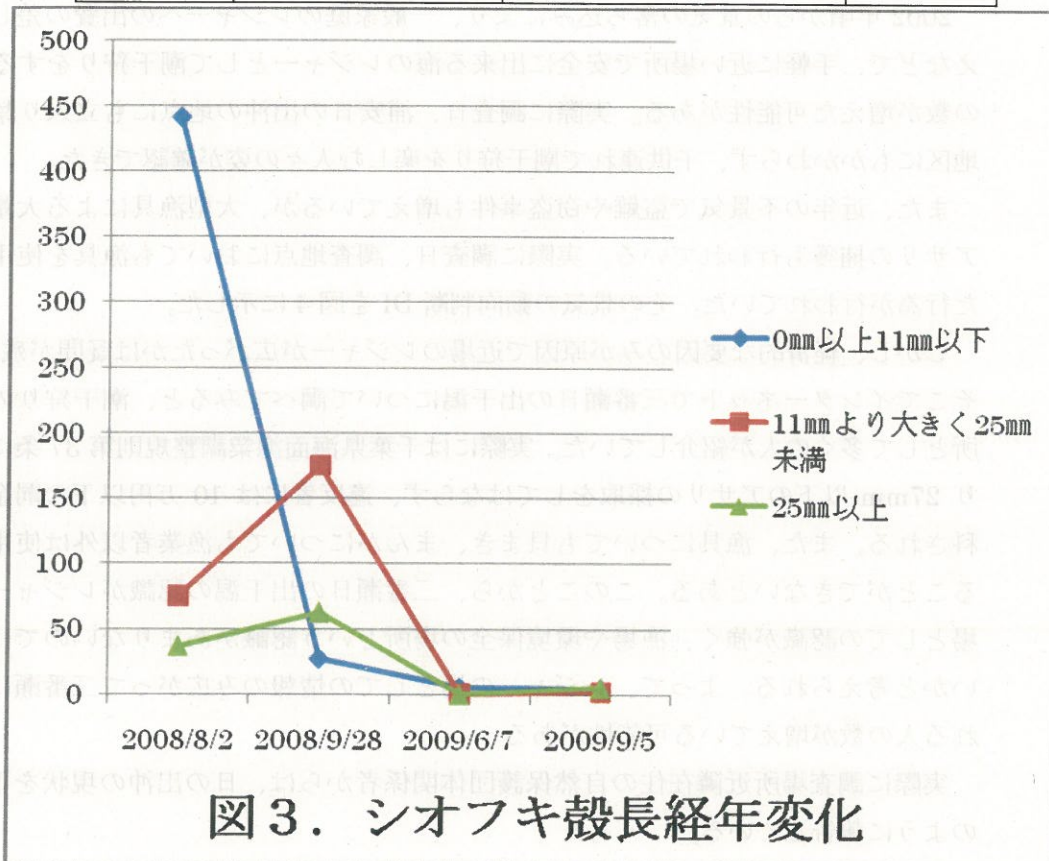


図3. シオフキ殻長経年変化

アサリとシオフキの殻長別に見た個体数を比べると、2008/8/2では0mm以上11mm以下の個体数はどちらも400以上の個体数であったが、約2カ月弱で激減している。これは成長に伴い殻長が大きくなり、11mmより大きく25mm未満の個体に移ったためと考えられる。しかしその後、2009年の調査に入った時点でアサリとシオフキともに個体数が激減している。この時人為的な被害があるとしたら食用であるアサリに特に影響があると思われたが、実際にはあまり食用にならないシオフキの個体数も激減していた。

この原因として、大型の漁具によって大量に採取された可能性がある。使用が禁止されている大型漁具の場合、アサリにとどまらず引かかる生物全てを根こ

そぎ採取するので、食用でないシオフキも採取される。この後アサリとより分けられ一か所に捨てられると、分布として一か所の密度のみ高くなり、広域で考えると密度が非常に小さくなる。今回の調査では生物密度がある程度均等でないと実際の環境は反映できないと考えられる。そのため、アサリの場合には実際に採取され個体数が減り、シオフキは分布密度に偏りが出たため個体数をうまく取れなかったと考えられる。

### 3. 3 アサリの成員の減少要因(環境要因以外)

2002年頃からの景気の落ち込みにより、一般家庭のレジャーへの出費の差し控えなどで、手軽に近い場所で安全に出来る海のレジャーとして潮干狩りをする人の数が増えた可能性がある。実際に調査日、浦安日の出沖の地点にも立入り禁止地区にもかかわらず、子供連れで潮干狩りを楽しむ人々の姿が確認できた。

また、近年の不景気で盗難や窃盗事件も増えているが、大型漁具による大量のアサリの捕獲も行われている。実際に調査日、調査地点においても漁具を使用した行為が行われていた。その景気の動向判断 DI を図 4 に示した。

しかし、経済的な要因のみが原因で近場のレジャーが広がったかは疑問が残る。そこでインターネットで三番瀬日の出干潟について調べてみると、潮干狩りの名所として多くの人が紹介していた。実際には千葉県海面漁業調整規則第 37 条により 27mm 以下のアサリの採取をしてはならず、違反者には 10 万円以下の罰金が科される。また、漁具についても貝まき、まんがについても漁業者以外は使用することができないとある。このことから、三番瀬日の出干潟の認識がレジャーの場としての認識が強く、漁場や環境保全の場所という認識があまりないのではないかと考えられる。よって、レジャーの場としての情報のみ広がって三番瀬を訪れる人の数が増えている可能性がある。

実際に調査場所近隣在住の自然保護団体関係者からは、日の出沖の現状を下記のように報告している。

\*3月～9月の大潮前後週末休日は2～300人の潮干狩り人口（このうち、1割は禁止されている漁具を使用）また、10～15艘の漁船、ボートが沖合いから漁具を使用してアサリを捕獲している。

このように日の出沖の潮干狩りは一般家庭のレジャー目的や個人の娯楽などにとどまらず、アサリ密漁を目的とした窃盗行為の増加がアサリの成員の減少の大きな要因となっている可能性があると言えるだろう。

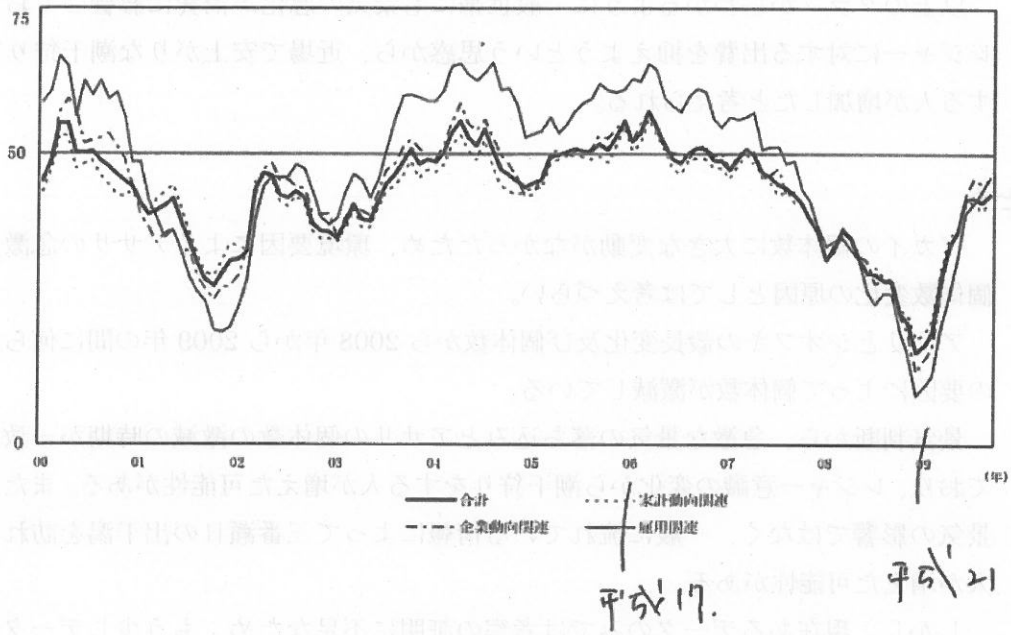


図4. 景気の動向判断DI

平成21年前後から急激な景気の落ち込みが見られており、実際に消費者態度指数にも影響が出ている。そのグラフを図5に示す。

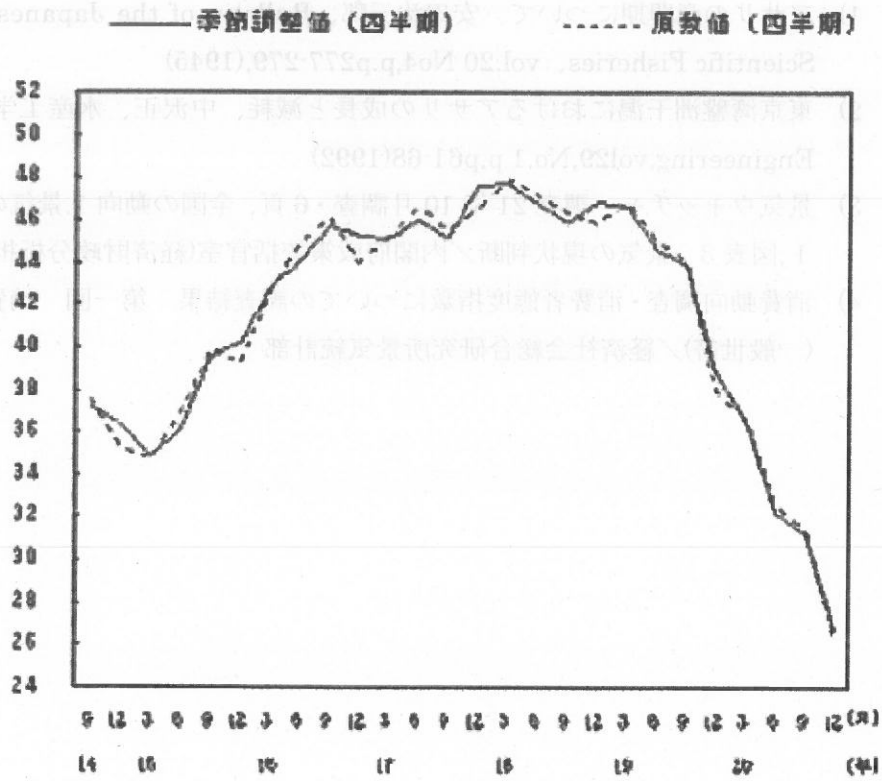


図5. 平成14年から21年までの消費者態度指数(一般世帯)

以上のグラフからわかるように一般世帯にも景気の悪化が消費に影響しており、レジャーに対する出費を抑えようという思惑から、近場で安上がりな潮干狩りをする人が増加したと考えられる。

## 5. まとめ

ゴカイの個体数に大きな変動がなかったため、環境要因によるアサリの急激な個体数変化の原因としては考えづらい。

アサリとシオフキの殻長変化及び個体数から 2008 年から 2009 年の間に何らかの要因によって個体数が激減している。

景気判断から、急激な景気の落ち込みとアサリの個体数の激減の時期が一致しており、レジャー意識の変化から潮干狩りをする人が増えた可能性がある。また、景気の影響ではなく、一般に流れている情報によって三番瀬日の出干潟を訪れる人が増えた可能性がある。

しかし、現在あるデータのみでは考察の証明に不足なため、もう少しデータを蓄積してから解析しなおすと、正しいかどうか明らかになる可能性がある。

### 〈参考文献〉

- 1) アサリの産卵期について、安田治三郎、*Bulletin of the Japanese Society of Scientific Fisheries*, vol.20 No4,p.p277-279,(1945)
- 2) 東京湾盤洲干潟におけるアサリの成長と減耗、中沢正、*水産工学 Fisheries Engineering*,vol29,No.1 p.p61-68(1992)
- 3) 景気ウォッチャー調査 21 年 10 月調査・6 頁、全国の動向 1.景気の現状判断D I,図表 3 景気の現状判断／内閣府政策統括官室(経済財政分析担当)
- 4) 消費動向調査・消費者態度指数についての調査結果 第一図 消費者態度指数(一般世帯)／経済社会総合研究所景気統計部